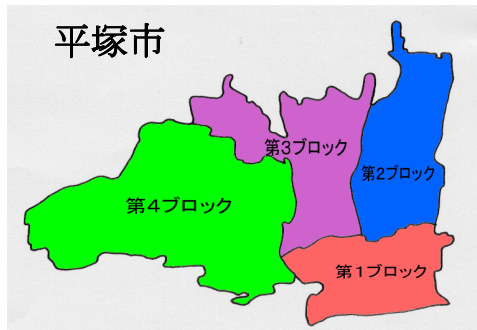


～アンケート「わが地域の防災の取り組み」結果まとめ～

(平塚市防災危機管理部防災危機管理課・ひらつか防災まちづくりの会)



～ アンケート回収数 ～			
市内全域 179 / 236 (有効回答数175)			
◆第一ブロック ; 49 / 65	◆第二ブロック ; 37 / 59	◆第三ブロック ; 52 / 62	◆第四ブロック ; 37 / 50

21年5月に行わせて頂きましたアンケート「わが地域防災の取り組み」には多数のご回答をありがとうございました。結果をまとめましたので、ご報告いたします。地域の皆さまのご参考にして頂ければ幸いです。なお、左図に示されるように平塚の地域は、防災訓練等において四つに分けられています。これに基づき、表／グラフ等は各ブロックごとにまとめ、比較できるようにしました。

- ◆第一ブロック (花水・なでしこ・港・富士見・松原・崇善地区)
- ◆第二ブロック (八幡・四之宮・真土・横内・横内団地・田村・大神地区)
- ◆第三ブロック (中原・伊勢山・新町大原・東中原・南原・豊田・城島・岡崎地区)
- ◆第四ブロック (金目・金田・旭南・旭北・土屋・吉沢地区)

～ アンケート(回答数175)・インタビュー・訪問等の結果から ～

課 題

- ◆組織・役員
 - ・役員のなり手がみつからない。
 - ・役員交代制(任期は1年または2年)で、ようやく慣れた頃に任期を終える為、防災体制見直し等新しい取り組みは困難。
 - ・任期1～2年交代制の自治会長が自主防災会会長も兼任、責務は重い。
 - ・役員は例年行事をこなすのに手一杯、“防災にまで手が回らない”
- ◆訓練
 - ・どのような訓練が効果的かわからない(教えてほしい)
 - ・マンネリ化したものでない訓練を行いたい。
 - ・防災専任の話が聞きたい。
- ◆安否確認 / 要援護者支援
 - ・高齢・独居・核家族化
 - ・昼間人口減、昼間災害時の救出救護が憂慮される。
 - ・把握を進めたいが難しい。(個人情報保護法にしばられている)
 - ・把握の形は作ったが、そこから先が進まない。
 - ・外国籍住民との意思疎通が難しく、災害時が不安。
- ◆地域による課題
 - ・津波・水害・土砂災害・液状化・道路が狭いなど。
 - ・避難所となる学校が遠い。
 - ・マンション/分譲住宅の新築増加。新旧住民が混在、まとまりが難。
 - ・単身者用マンションも増加、個人情報保護の為に表札もない住居も多い。

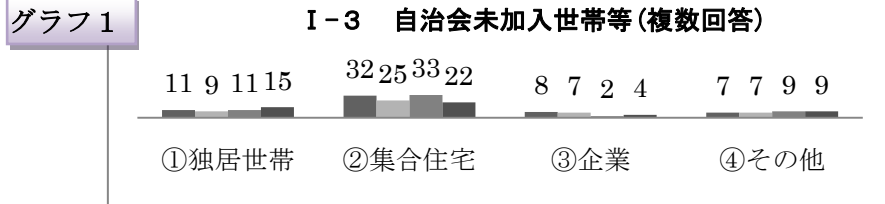
工 夫

- ◆組織・役員
 - ・防災は命を守る事、組長交代時ほか年数回は自主防災会を開催している。
 - ・防災部員については交代制でなく、専従としている。
 - ・役員公募で若手登用、新旧の意見を取り入れ、自治会の刷新を図っている。
 - ・町内を数地域に分け、それぞれに防災支部長と防災班を置いている。
 - ・自治会組織とは別に有志メンバーによる自主防災組織を立ち上げている。
- ◆訓練
 - ・自主防災会に被災体験者を招き、実際の話聞くなどの工夫をしている。
 - ・例年行事で、防災資機材を使用する、防災ゲームを行うなど、日常に防災意識啓発を取り入れる工夫をしている。
 - ・防災訓練案内時に個人情報記載の為に携帯カード(本人保管)を配布する。
 - ・訓練時の参加者名簿に「要支援者へ支援;可・不可」の記入欄を設けている。
 - ・他組織との連携・合同で防災訓練を行っている。(自治会連合・小中学校・消防団・平塚パワーズ・青少年地域教育カネットワーク・平塚市飲食業料理組合連合会・社協・企業など)
 - ・地域内高校教諭に地震の話聞く、地域内工場の防災訓練に参加する。
- ◆安否確認 / 要援護者支援
 - ・向こう三軒両隣の方式(班ごとに安否確認を行うシステム)を取っている。
 - ・町内班長とは別に防災班長を置く(班の様子を把握することが防災班長の任務)
 - ・調査カード(手あげ方式)で支援者・要支援者を把握している。
 - ・中学生の力を生かしたい。(中学生防災部隊・防災キャンプボランティアほか)
 - ・行政の防災リーダー研修に女性を派遣、もしもの時には女性がリーダーとして活躍できるように考えている。
 - ・地域内に複数一時避難所を設け、万一の際住民は数人ずつ、各々の一時避難所へ避難するようにしている。

I、自治会加入状況 (平塚市統計 自治会加入率；76.4%)

(以下のグラフ中のグラフ棒 … 左から順に 第一・第二・第三・第四ブロックを示す)

I-3 未加入世帯	① 世帯 独居	② 住宅 集合	③ 企業	他 ④ その	計
第一ブロック	11	32	8	7	58
第二ブロック	9	25	7	7	48
第三ブロック	11	33	2	9	55
第四ブロック	15	22	4	9	50
平塚全域	46	112	21	32	211



I、「自治会加入状況」について

以下の項目をお尋ねしました。

1) 地域世帯数 地域では明確な把握はされていない。

2) 自治会加入世帯数

【回答】 32世帯～1532世帯まで … 自治会により大小様々。

※ 地域世帯数が明確でない為、アンケート上では『自治会加入率』は算出不可。

※ 自治会加入率100% (地域世帯数=加入世帯数) との回答
平塚市全域で24 ⇒⇒ マンション等集合住宅からの回答が多い。

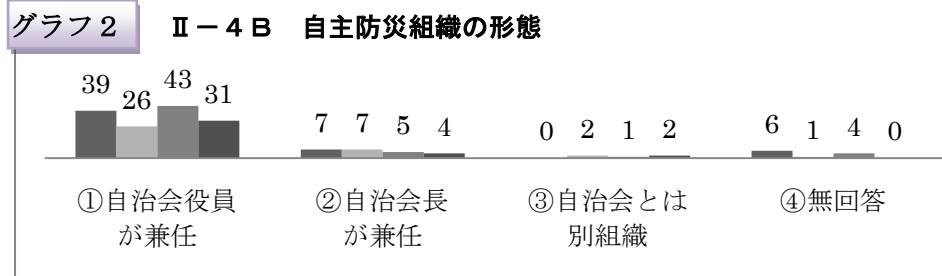
【・第一ブロック … 11 ・第二ブロック … 3】
【・第三ブロック … 5 ・第四ブロック … 4】

3) 未加入世帯について (表1 / グラフ1)

【全域】 ・集合住宅の未加入； 112 … 最も多い。
・独居世帯の未加入； 46 … 高齢独居者・単身者等
・企業等の未加入； 21 … 加入企業・商店も少なくはない(?)

II、自主防災組織について

II-4B 自主防の形態	① 自治会 役員 が兼任	② 自治会 長 が兼任	③ 自治会 とは 別組織	④ 無回答	計
第一ブロック	39	7	0	6	52
第二ブロック	26	7	2	1	36
第三ブロック	43	5	1	4	53
第四ブロック	31	4	2	0	37
平塚全域	139	23	5	11	178



II、「自主防災組織」について

以下の項目をお尋ねしました。

4) A 自主防災組織の構成人数

【回答】；6名(防災部役員数)から 推定1800名(住民数)まで様々。

※ 捉え方もいろいろ … 設問に工夫が必要

B 自主防災組織の形態 (表2 / グラフ2)

【全域】 ①「自治会役員が自主防災会役員を兼任する(組織兼務型)」 … 139
②「自治会長が自主防災本部長を兼任する(自治会長兼務型)」 … 23
③「自主防災会は自治会とは別組織(独立型)」 … 5

C 自主防災会の構成メンバー

組織兼務型/自治会長兼務型；自治会長・自治会役員・組長・防災リーダー・有志
独立型；有志(自治会役員OB・会社員・主婦・医療従事者・民生委員等)

※ 独立型自主防災組織(自治会とは別の組織)について

アンケート結果では、市内全域で、

『自治会役員が自主防災会役員を兼任する(組織兼務型)』が大多数。

一方、『自主防災会は自治会とは別組織(独立型)』にも複数回答が見られた。
有志(専任メンバー)で構成されている独立型の自主防災組織では、防災訓練・会議などに専任ならではの工夫が凝らされているようである。

Ⅲ、地域の特徴について

以下の項目をお尋ねしました。

5) A 隣近所の付き合い

- ①比較的多い。
- ②あまりない。
- ③どちらとも言えない。

(表3/グラフ3)

B 地域行事への参加者数

- ①多い方
- ②少ない方
- ③どちらとも言えない

(表4/グラフ4)

C 災害時に支援や声かけの必要な方

- ①多い方
- ②少ない方
- ③どちらとも言えない。
- ④明確には把握できていない

(表5/グラフ5)

6) その他、地域の特徴があればご記入下さい。(記入欄; 後述)

表3

Ⅲ-5A 隣近所の 付き合い	①比較的多い	②あまりない	③どちらとも言えない	計
第一ブロック	21	5	22	48
第二ブロック	16	7	13	36
第三ブロック	26	2	24	52
第四ブロック	20	3	15	38
平塚全域	83	17	74	174

Ⅲ-5A 隣近所のお付き合い

全 域 「比較的多い」が、「あまりない」を大きく上回っている。

地域 特徴

- ・第三ブロック…「比較的多い」で上位 26/52
- ・第二ブロック…「あまりない」で上位 7/36

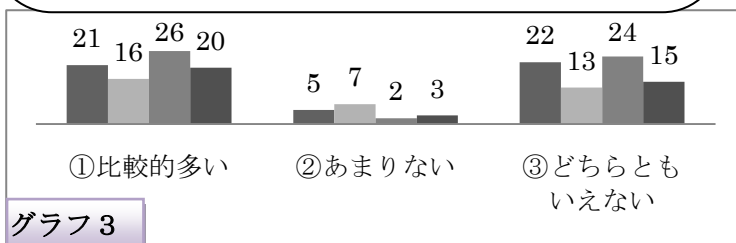


表4

Ⅲ-5B 地域行事等 参加者数	①多い方	②少ない方	③どちらとも言えない	計
第一ブロック	14	17	16	47
第二ブロック	13	9	13	35
第三ブロック	33	5	14	52
第四ブロック	19	6	10	35
平塚全域	79	37	53	169

Ⅲ-5 「地域行事等への参加者数」

全 域 「多い方」との回答が多数。

地域 特徴

- ・第一ブロック …「少ない方」で上位 17/47
- ・第三ブロック …「多い方」で上位 33/52

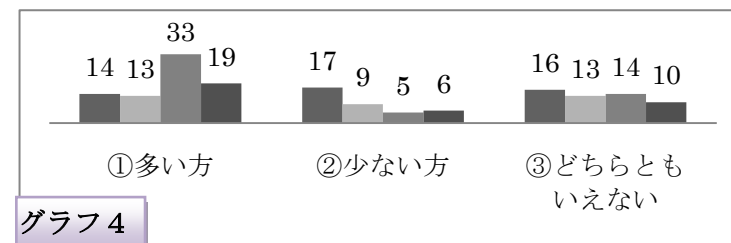


表5

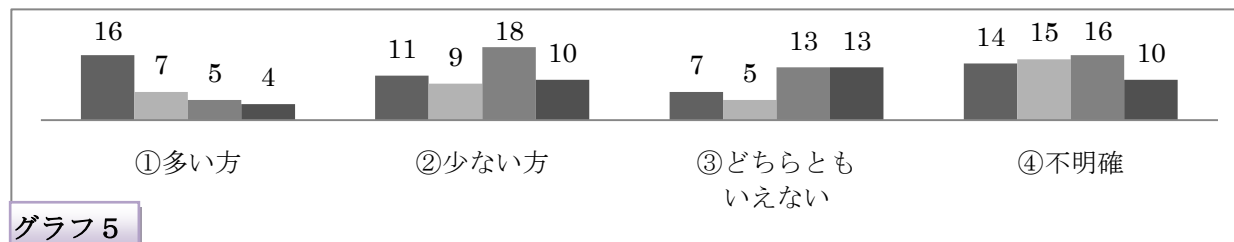
Ⅲ-5C 災害時に支援 の必要な方	①多い方	②少ない方	③どちらとも言えない	④不明確	計
第一ブロック	16	11	7	14	48
第二ブロック	7	9	5	15	36
第三ブロック	5	18	13	16	52
第四ブロック	4	10	13	10	37
平塚全域	32	48	38	55	173

Ⅲ-5C 災害時に支援の必要な方

全 域 「少ない方」の回答が多数。

地域 特徴

- ・第一ブロック …「多い方」で上位 16/48
- ・第三ブロック …「少ない方」で上位 18/52



IV-7、防災の取り組みについて

以下の項目をお尋ねしました。

7) A 防災活動の形態について

- ①行政主導が中心。
- ②単位自治会で行う。
- ③複数自治会で行う。
- ④地域行事でも防災コーナーを設けている。
(表6/グラフ6)

B 参加者の状況について

- ①積極的主体的な参加が多い
- ②動員での参加がほとんど。
(表7/グラフ7)

C 参加呼びかけの対象

- ①役員のみ
- ②住民にも呼び掛ける。
- ③支援の必要な方にもご参加頂いている。
- ④その他
(表8/グラフ8)

表6

IV-7A 防災活動 の形態	①行政 主導	②単 位自 治会	③複 数自 治会	④地 域行 事 で	計
第一ブロック	26	26	21	3	76
第二ブロック	18	13	14	0	45
第三ブロック	18	8	36	2	64
第四ブロック	14	26	9	1	50
平塚全域	76	73	80	6	235

表7

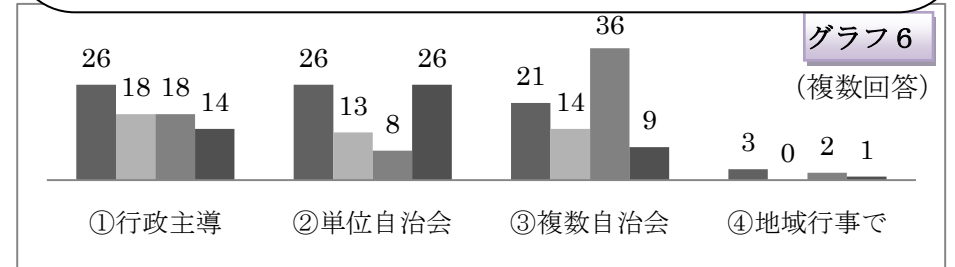
IV-7B 参加者の 状況	①主 体的	②動 員	計
第一ブロック	8	38	46
第二ブロック	6	28	34
第三ブロック	14	38	52
第四ブロック	10	27	37
平塚全域	38	131	169

表8

IV-7C 呼びかけ 対象	①役 員の み	②住 民に も	③要 支援 者も	④そ の他	計
第一ブロック	8	40	5	2	55
第二ブロック	5	25	7	2	39
第三ブロック	8	44	4	1	57
第四ブロック	7	32	4	3	46
平塚全域	28	141	20	8	197

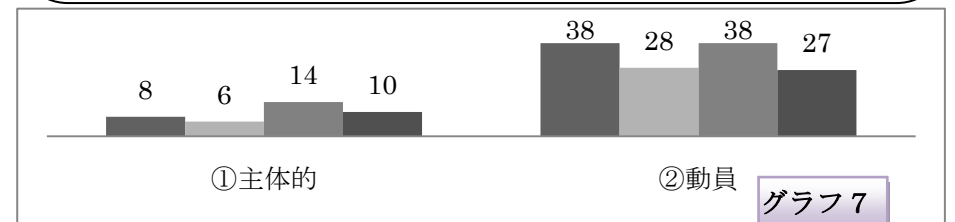
IV-7 A 防災活動の形態について

- 全 域** ・「行政主導」・「単位自治会」・「複数自治会」での取組みが平均的。
・「地域行事で」の取組み；多くないが複数地域に見られる。
- 地域 特徴** ・第三ブロック…「複数自治会(合同)」36/64 と多い。
・第四ブロック…「単位自治会」26/50 と多い。



IV-7 B 参加者の状況について

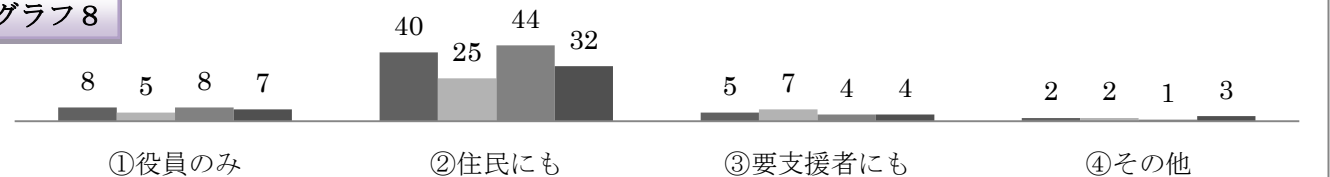
- 全 域** ・「動員での参加」 131/169 (77.5%)
・「主体的参加」 38/169 (22.5%)
- 地域 特徴** ・第三ブロック…「主体的参加」14/52 と多い。
・第四ブロック…「主体的参加」10/37 と多い。



IV-7 C 呼びかけ対象について

- 全 域** ・訓練時は「役員のみ」でなく、「住民にも」呼びかけている。
- 地域 特徴** ・第二ブロック…『要支援者への呼び掛け』 7/39 と多い。

グラフ8



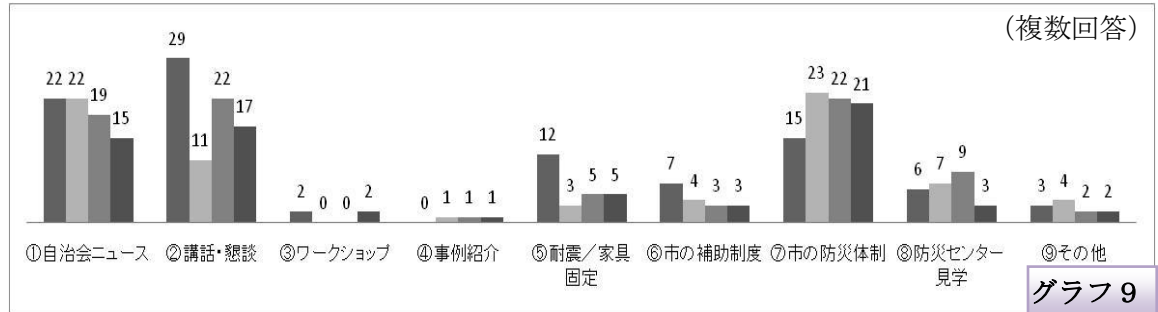
IV-8、過去5年間の「防災の取り組み」

IV-8. 「過去5年間に実施された防災の取り組み」 以下の項目をお尋ねしました。
 A 意識啓発 B 実技訓練 C 状況把握 D 仕組 E 防災備蓄 F その他の取り組み(記入欄;後述)

IV-8A 意識啓発	①自治会ニュース	②講話・懇談	③ワークショップ	④事例紹介	⑤耐震／家具固定	⑥市の補助制度	⑦市の防災体制	⑧防災センター見学	⑨その他	計
第一ブロック	22	29	2	0	12	7	15	6	3	96
第二ブロック	22	11	0	1	3	4	23	7	4	75
第三ブロック	19	22	0	1	5	3	22	9	2	83
第四ブロック	15	17	2	1	5	3	21	3	2	69
平塚全域	78	79	4	3	25	17	81	25	11	323

IV-8 A 意識啓発

全 域 *取り組み数が多いもの
 ・市の防災体制お知らせ 81 ・講話懇談 79 ・自治会ニュース 78
 *取り組み数の少ないもの
 耐震／家具固定 25 市の補助制度お知らせ 17 ワークショップ 4 事例紹介 3
地域 特徴・第一ブロック…耐震家具固定 12 市の補助制度 7 と多い。



IV-8B 実技訓練	①消火訓練	②救出救助搬送	③避難所避難	④三角巾講習	⑤ロープ講習	⑥バケツリレー	⑦救急救命法	⑧起震車体験	⑨応急手当法	⑩災害時対応シミュレーション	⑪防災キャンプ	⑫その他	計
第一ブロック	36	25	26	29	18	15	20	21	11	7	3	3	214
第二ブロック	32	14	12	20	15	9	15	18	10	3	3	2	153
第三ブロック	40	18	27	42	16	17	17	40	16	2	5	8	248
第四ブロック	31	17	29	33	12	20	19	19	13	7	7	3	210
平塚全域	139	74	94	124	61	61	71	98	50	19	18	16	825

IV-8 B 実技訓練

全 域 *取り組み数が多いもの
 消火訓練 139 三角巾講習 124 起震車体験 98
 避難所避難 94 救出救助搬送 74 救急救命法 71
 ロープ講習 61 バケツリレー61 応急手当法 50
 *取り組み数が少ないもの
 災害時対応シミュレーション 19 防災キャンプ 18
地域 特徴
 ・第三ブロック…起震車体験 40 と多い。
 ・第四ブロック…防災キャンプ 7 と多い。
 ・第一・第四ブロック
 …災害時対応シミュレーション 共に7 と多い。

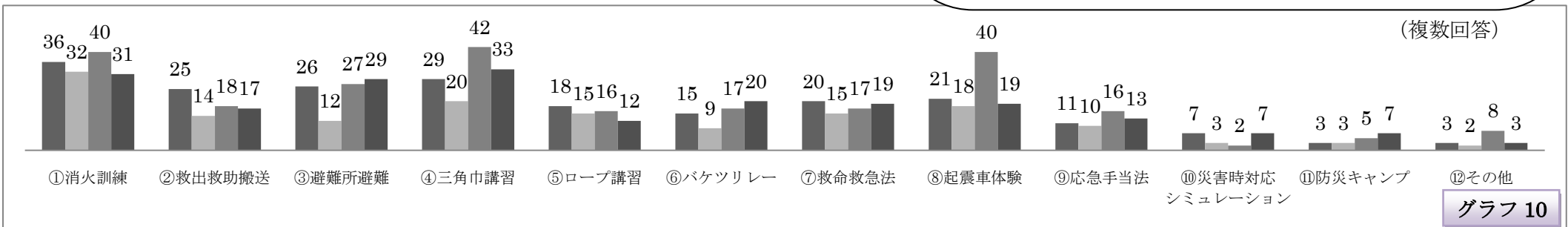


表 11	①防災まちあるき	②防災マップ作成	③避難所運営方法	④要支援者把握	⑤支援者把握	⑥その他	計
IV-8C 状況把握							
第一ブロック	8	5	25	26	6	1	71
第二ブロック	13	12	15	7	3	3	53
第三ブロック	10	7	27	26	8	3	81
第四ブロック	9	7	22	11	4	3	56
平塚全域	40	31	89	70	21	10	261

IV-8C 状況把握

全 域 *多い順 避難所運営方法 89 要支援者把握 70 防災まちあるき 40
 防災マップ作成 31 支援者把握 21

地域 特徴・第一/第三ブロック…要支援者把握・支援者把握・避難所運営方法把握 が共に多い。
 ・第二ブロック… 防災まちあるき 13 マップ作成 12 が共に多い。

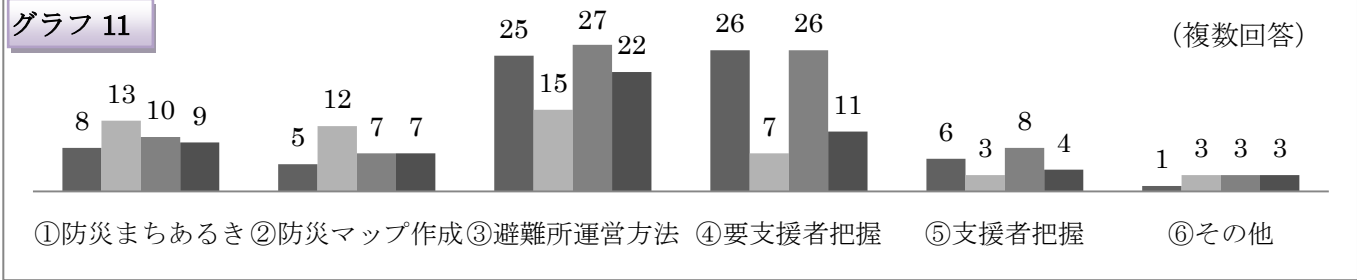


表 12	①連絡体制整備	②発災時マニュアル作成	③要支援者救出方法	④見守り支え合い体制	⑤町内井戸提供	⑥避難所災害時対応	⑦災害時協定(企業等)	⑧協働(消防団・商店)	⑨その他	計
IV-8D 仕組み										
第一ブロック	33	23	11	11	6	7	3	15	0	109
第二ブロック	23	12	1	3	2	13	1	15	2	72
第三ブロック	25	16	8	13	9	11	1	14	2	99
第四ブロック	21	18	8	1	7	10	5	10	0	80
平塚全域	102	69	28	28	24	41	10	54	4	360

IV-8D 仕組み

全 域 多い順

- 連絡体制の整備 102
- 発災時マニュアル作成 69
- 協働(消防団・商店と) 54
- 避難所災害時対応 41
- 見守り支え合い体制 28
- 要支援者救出方法 28
- 町内井戸提供の仕組み 24
- 災害時協定(企業等) 10

地 域 特 徴

全地域を通じ、最も多い回答

- 第四ブロック 18/80
- 第一ブロック 23/109
- 第二ブロック 15/72
- 第二ブロック 13/72
- 第三ブロック 13/99
- 第一ブロック 11/109
- 第一ブロック 11/109
- 第四ブロック 8/80
- 第三ブロック 9/99
- 第四ブロック 7/80
- 第四ブロック 5/80

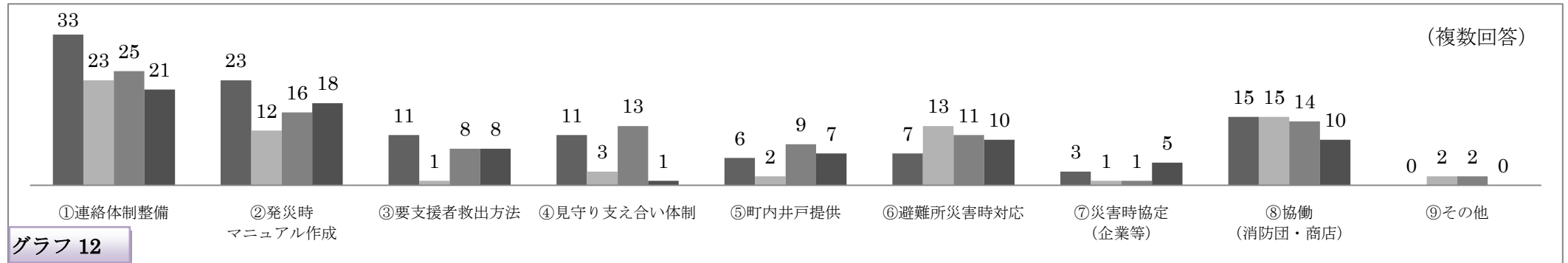


表 13 IV-8E 防災備蓄	①時々確認する	②定期的に点検する	③あまり確認せず	④その他	計
第一ブロック	37	16	18	0	71
第二ブロック	28	9	12	1	50
第三ブロック	39	16	18	1	74
第四ブロック	23	11	19	2	55
平塚全域	127	52	67	4	250

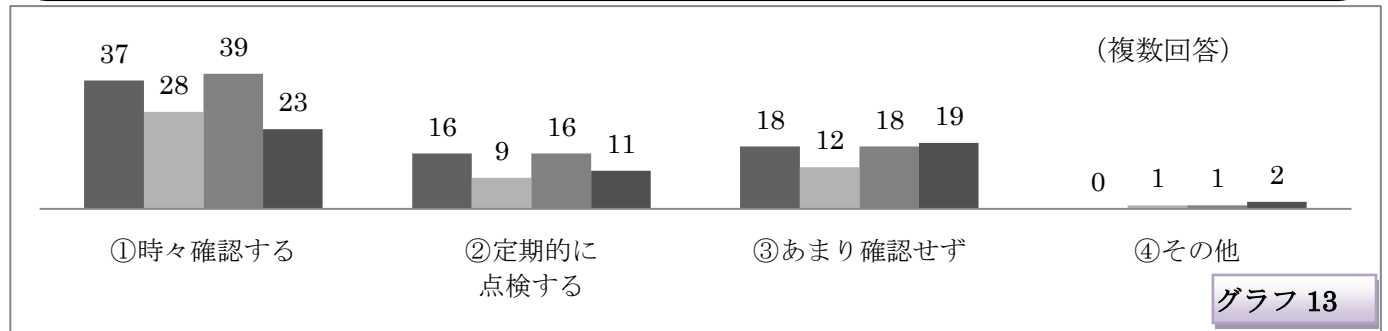
IV-8 E 防災備蓄

全 域 *多い順

・時々確認する 127 あまり確認せず 67 定期的に点検する 52

地 域 特 徴

・第一・第三ブロック…「定期的に確認する」共に 16



～～ 記入欄 ; 回答まとめ ～～

III-6 あなたの地域の特徴をご記入下さい(まとめ)

アンケート記入欄への回答…「まとめ」・「抜粋」で記載としました。

※ IV-9 特徴的意欲的な団体の紹介 …割愛させて頂きました。

第一ブロック	第二ブロック	第三ブロックから	第四ブロックから
<p>＜地 域＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *海そば・川そば…津波が不安 *埋め立て地…液状化が心配 <p>＜マンション関連＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *マンションが非常に多い(近年は単身者用マンションの増加著しい) *自治会未加入・無表札・高齢独居化 *外国籍居住者との意思疎通が難 *高層階からの災害時避難が不安(特に停電時) <p>＜住 民＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *高齢者・独居者の増加 *古くからの住民・マンション等集合住宅新住民が混在、居住年数の長い住民間では近所づきあいも密 <p>＜そ の 他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *道路が狭く路地が多い(地域による) *避難所が遠い 	<p>＜地 域＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *相模川のそば；決壊が心配 *従来畑の地域、地盤が弱い、液状化が心配 <p>＜住 民＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *高齢者の増加 *地元民、新しい転入者が混在 *地区に連合自治会と団地自治会があり、団地には外国籍住民が多い ⇒ 文化の違いから生活様式の形態が異なり、マナーの違いもあり、地元への波及に苦慮 <p>＜そ の 他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *避難所まで2.5～3 kmと遠く、近くに学校はない *狭い道路が通勤車両の通り道になっている 	<p>＜地 域＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *鈴川・金目川に挟まれ、土地が低い ⇒ 堤防決壊が心配 *下水道、排水路が整備され、近年は河川の氾濫はない *元水田だったため地盤が軟弱 <p>＜住 民＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *高齢者の増加 *町内に点在していた空き地の分譲 ⇒ 身近な避難場所が激減 ⇒ 地域世帯数の急増 ⇒ 昔からの農家世帯と開発等による新住宅地が混在している ⇒ 子供会への入会が増加 ⇒ 若い層(30歳代)の町内役員参加 *外国籍住民…防災訓練でもことばが通じないことが多い 	<p>＜地 域＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *鈴川と金目川に挟まれ、水害が心配 ⇒ 護岸強化が必要 *がけ崩れ・土石流が不安 *地盤が柔らかく地下30mくらいまで砂地、目の山には断層 *住宅道路が多くブロック塀も長い <p>＜住 民＞</p> <ul style="list-style-type: none"> *高齢者増加。 *一部に外国人居住者 *公営住宅；高齢者障がい者が多く、災害時が不安 *区画整理近々完成予定 ⇒ 付近の住民の様子が騒々しい *新旧住民が混在、調整が困難 *家族構成年齢が若返りを見せる *自主防災組織も若い世代が多く、サラリーマンが主となるが、昼間災害時に動けるのは主婦・高齢者

IV-8F、過去五年間にあなたの地域で実施された「その他の防災の取り組み」をご記入下さい(抜粋)

1	中学校区青少年教育ネットワーク協議会と合同で、小中学生と共に訓練を行う。
2	心肺蘇生法の講習を中学生と住民で受けて普通救命講習修了証を受けている。
3	避難所（自治会館）に参集訓練を実施。防災チラシの配布（市からのチラシ）参集時に道路の損壊、家屋の倒壊、負傷者の発見、崖崩れ等の情報を得ながら参集訓練とした。
4	市の下水道担当者に町内にマンホールのある場所やその役割（機能）の説明を受けた。災害時に活用することを前提に訓練を行う。
5	市消防署・消防団・自治会の合同訓練（たいへん役に立っている）。
6	地域内事業所（〇〇（株）との災害時に於ける応援協力協定の締結。
7	自治会の行事すべてが防災訓練として捉え、会員の皆さまとの親交を深めるため行事の度、防災機材を使用して100人以上の参加者の炊き出しや、盆踊り大会時に模擬店での資機材利用で非常用にも使えると理解している。
8	班長が防災家族票を保管し、向こう三軒両隣（声かけ班）を各班作り声をかけ合うシステムがある。7歳以上から家族数のヘルメットを配ってある。
9	食糧救急用品等、自治会でどの程度確保すべきか検討し、不足分については充実していく。行政の指針があれば伺いたい。単一自治会では避難訓練、消火訓練は実施しがたい。自治連合とも話し合いを進める。
10	〇〇工場の防災訓練の消火講習（訓練）に参加している。
11	自治会研修視察の際、野島断層の見学、神奈川県活断層の説明を受けました。防災訓練役員に組長を加える様にしました。今後は会員も加える予定です。
12	①平塚市の防災体制等を、自主防災会や防災ニュースで一部紹介。②防災カード … 要支援者・町内井戸の把握。⇒防災マップとしている。 ③自治会内に消防分団があり、平塚市料理飲食業組合連合会常務理事が居住。自治会行事に防災ブースを設置。分団・飲食業料理組合にご協力を頂いている。 <内容>救出法・消火法・非常食体験・空缶による飯炊き体験・消防車体験・消火器訓練・てんぷら火災消火・火災報知機の説明など。
13	地域災害対策本部設置訓練を実施（地区社協、子ども達も参加）

IV-10、あなたの地域の「取り組みの留意点」「今後取り組みたいとお考えのこと」「ご意見」等、自由にご記入下さい(抜粋)

1	団地なので住居はすべて中高層建築です。どんな災害となるか想像出来ませんが、支援の必要な方が多いので、支援できる体力のある者が、圧倒的に少なく、効率的な救出方法があれば、教えていただき、訓練したいと考えています。
2	高齢者が多く自分の身を守ることが精一杯の状況であり、災害が発生した時にどれだけ助け合えるか心配です。
3	防災訓練参加者は自主防災関係者役員がほとんどで一般の人が少ない。防災意識の高揚を図る為のPR等自治会への未加入者の対応をどうするか考慮すべき。
4	①阪神淡路大震災（1月17日発生）の折り、西宮に知人がおり、1月20日に水、カセットコンロ、ハンマー、のこぎり等50kgの荷物を持って駆け付けた。TVの画面以上に現場の生々しい状況を目と耳で確認。幸いに怪我もなく住宅も半壊でホットしたが、知人の奥さんは、ショックで座り込んだまま。 物・人の支援に当たっては、「心のケア」まで考えておく必要ありと感じた。 ②携帯電話万能の時代で平塚市からも公衆電話が少なくなりつつある。（以前は町のタバコ屋の店先にあたりして、身近な連絡手段であったが）いざの時に携帯電話回線はパンクする。災害の時に有効な手段として公衆電話を見直して欲しい。

5	今年思いがけず自治会長になり防災に携わることになりましたが、自治会長イコール防災組織の本部長となり、単なる主婦にいったい何ができるのかと不安でいっぱいな状況です。マンション住人も高齢化、一人暮らしも増えており、支え合いカードを元になんとかのりきれたらと思います。
6	①毎年自治会役員、特に組長さんが一年交代であるので、防災資機材の取扱について繰り返して行うことが大切であると考えている。 ②地域としても会員相互のつながりが深まることで災害時対応が強まることであるとめざしています。（行事すべてが防災訓練だ！）
7	①防災訓練避難訓練は定期的継続的に行っていきたい。②市が作成した「災害に備える」の小冊子を用いた勉強、周知をはかりたい。③、防災倉庫の見直し改善、（現在小さい、設置場所不適切）
8	自主防災組織を立ち上げ“支え合いカード”を作成。それを引き継ぎ、二年後に調査内容チェックを行う予定。
9	町内全戸あがての防災訓練は毎年必ず実施し、さらに参加者を増やしたい。それと共にほんの少しずつでも内容のレベルアップを図りたい。 各班ごとに自主性を持った防災対策や、訓練に取り組んでいけるよう指導する。 十分に人を集めて参加させ得る体制も宣伝、教育もできていると自負しているけれど、屋外での自主防災訓練をする為の場所がないのが悩み（H16年の屋外訓練は夜間とし、町内事業所の駐車場を借りた）。
10	高齢化、独居老人などに関する防災対策の取り組みをどのように進めるか。
11	防災講演会を実施しても参加者が少ないので、少しでも参加者を増やそうと、昨年度出席者には防災グッズ（位置を知らせる笛とランプがつくグッズ）を配布した。思ったほど参加者は増えなかった。今後は自治会だけの行事でなく、老人会の行事とくみあわせ、さらに参加者を増やそうとしている。
12	行動をするには連合会（7町内会）で合同訓練の実施であり、今後もこの体制づくりを主体で行う意向です。たとえば実施訓練については毎年内容を変えて行っています（ただし炊き出しは毎回行う）。実体験を第一とした訓練を行いたい。行政のご協力をお願い致します。
13	防災リーダーは当初より、当自治会は女性です。既に10人以上となり、今後、この経験者グループで、地域の女性隊が出来たら良いな、と考えております。どこかの自治会で、実施しているところがあれば、ご指導ください。
14	①防災カード・・・過去2回の調査により、支援が必要な方、提供可能な町内井戸を把握している。転居、出生死亡など随時の届け出と更新。これらを地図にまとめ、会長、副会長、総務、地区長が保管している。カードを活用し、支え合い体制をさらに一歩進めたい。 ②災害時に動ける自主防災組織としていく為には何らかの打開策・根本の見直しが必要だと思う。例年行事・地域交流会に多忙、自治会役員は例年の行事をこなすことで手一杯と言え、自主防災活動の充実には力割くことが難しい。 ③他地域の事例などがあると、自分の地域への対応を工夫できそうである。
15	〇〇小学校が避難場所に指定されていますが、距離的にも遠い為、〇〇地区内、四つの公園を第一避難所とし、ここで安否確認できるよう、昨秋、全戸アンケート調査を実施。住民の意識の高さを実感し、今年度引き続き、具体的活動を行う計画。 この活動の中では、隣近所の付き合いの重要性を念頭に、何かと障害となっている「個人情報保護」をどこまで打破できるかが、ポイントと考えている。防災・防犯の取り組みで「隣は何をする人ぞ!!」では効果が期待できない。
16	災害時の避難方法の検討のためプロジェクトチームを発足した。安否確認、救出方法、避難経路避難方法を検討し、マニュアルを作成する。その実施訓練をH21年度・H22年度に実施する計画である。
17	できるだけ多くの人と年代が参加体験できるイベントを企画したい（例えば神奈川県総合防災センター等）。

